

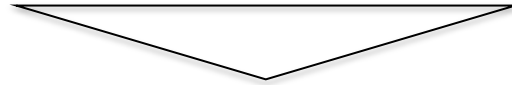


# 学童スペース増床と費用負担についての提案

2014.10.22

太尾第二学童 運営検討委員会

**学童スペースの課題** ■現状では横浜市の面積基準 1.65m<sup>2</sup>/人 を満たせない  
■学童保育を必要とする世帯をこれ以上 受け入れられない



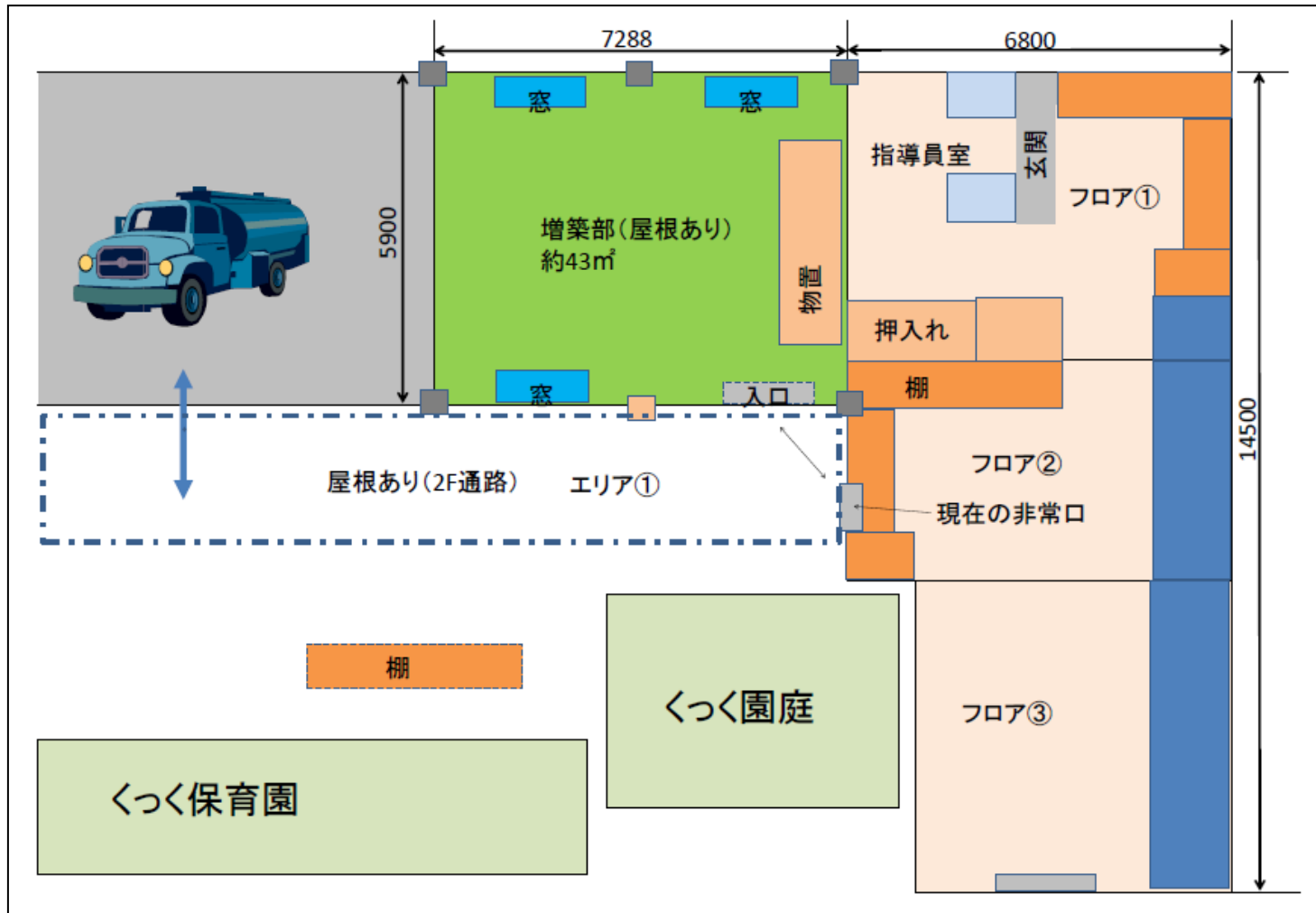
- **解決案①**：現在員 +  $\alpha$  を受け入れられる広い物件に **移転**
  - 運営費用は面積に応じ、大幅な増加が想定される⇒ 大倉山地区の空き物件と家賃相場から非現実的なため **断念**
  
- **解決案②**：現学童クラブを2カ所に **分割**
  - 子ども、指導員、保護者が分断せざるを得ない
  - 数年後の太尾小キッズクラブ化を考えると先々の運営が不安。⇒ 現時点で分割に踏み切るとは運営リスクが大きい **断念**
  
- **解決案③**：現在の物件をベースに面積を **増床**
  - ⇒ 大家(西山建材)の賛同も得られ、費用面も解決の見込みあるため **実施の方向で検討**

<検討における前提条件>

・保護者会会計移転準備金の活用 ・横浜市家賃補助増額 ・H27年度学童助成金未決定

# ◆増床の提案

指導員室の隣の駐車場スペース約43㎡を増床して保育スペースを拡大する



# ◆増床の効果

学童\_児童数予想②（H27年20名入所、H28以降15名入所、2年～6年、毎年1名減の場合）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
1年	11	20	20	15	15	15	15
2年	13	11	19	19	14	14	14
3年	14	13	10	18	18	13	13
4年	10	14	12	9	17	17	12
5年	7	9	13	11	8	16	16
6年	4	7	8	12	10	7	15
合計	59	74	82	84	82	82	85

現状 スペース	対適正人数(人)	+6	+21	+29	+31	+29	+29	+32	⇒大幅に定員を上回る
	対適正人数比(%)	111	140	155	158	155	155	160	

スペース 拡大後	対適正人数(人)	-18	-3	+5	+7	+5	+5	+8	⇒概ね定員を満たしていると言える
	対適正人数比(%)	77	96	106	109	106	106	110	

現状スペースの適正児童数  $87\text{m}^2 \div 1.65\text{m}^2 \div 53\text{名}$

スペース拡大後の適正児童数  $(87\text{m}^2 + 40\text{m}^2) \div 1.65 \div 77\text{名}$

## ◆増床に向けた検討課題(おもに費用面)

### ①平成27年度以降の横浜市の学童助成金額

⇒現時点未決定のため**継続確認**(情報によると現状維持、増額なしの方向性)

### ②増床による横浜市の家賃補助の増額申請(15→20万円へ月5万円増額)

⇒耐震基準を満たす必要がある

⇒認定には耐震診断書が必要(建物全体の評定書も添付する必要あり)

⇒確認の結果、耐震補強が必要だが2F住居部分などは作業不可

⇒**増額申請は断念**

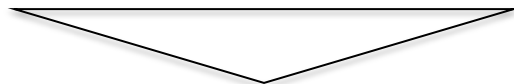
### ③増床部分の家賃交渉

⇒想定される家賃増分は概算見積もりで月10万円程度の見込み

⇒②の家賃補助増額したとしても月5万円程度の不足

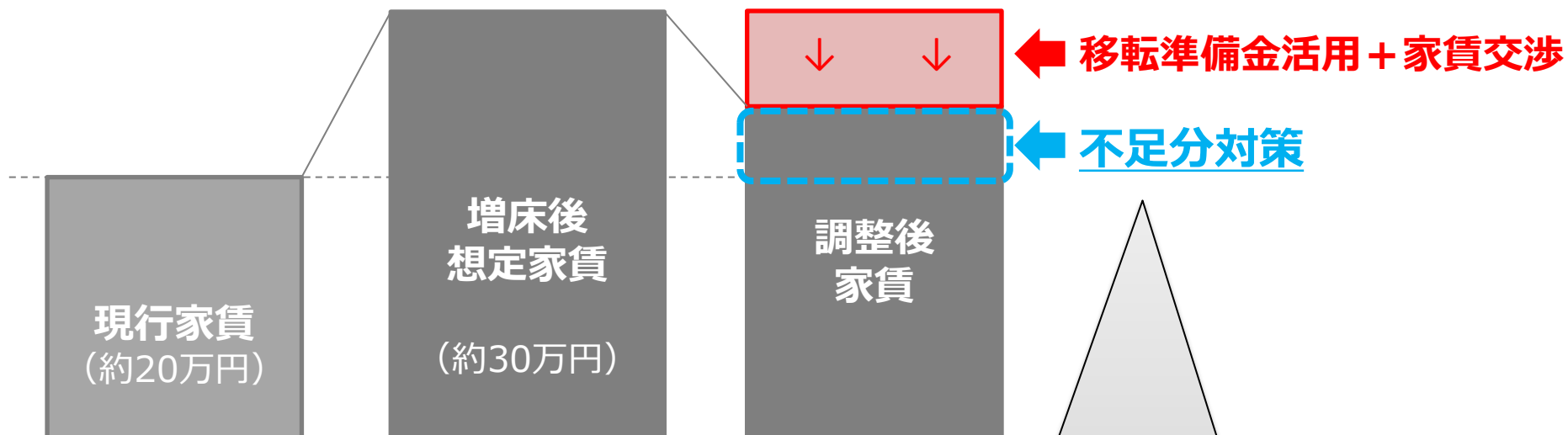
⇒増床工事費の一部を移転準備金から支払った上で家賃ダウン交渉

⇒**今後大家さんと交渉予定**



②家賃補助増額断念ため、①の動向次第で**不足額補填策の検討が必要**

## ◆不足額補填の対策（案）



**想定不足額：約5万円～（年額60万円～）**

⇒ **保育料の増額で補うとすると**

**1-3年 500円up**（16,500円→17,000円）

**4-6年 1000円up**

（4年→12,000円 5年→11,000円 6年→10,000円）

⇒ **約6万円（年額70万円）程度で賄える予想**

※平成27年度予想児童構成で算出

# ◆ 10月保護者会後の西山建材店との交渉結果

## ①増床部分の家賃交渉

### <太尾第二学童としての要望事項>

増床部希望家賃（税抜） 44,450円（当初の概算見積もり額の半額88,900円÷2）  
①191,500円（現在の賃料） ②44,450円（増床部賃料） ③2,000円（共益費）  
希望新賃料（税抜） 237,950円（①+②+③）  
希望新賃料（税込） 256,986円（内消費税19,036円）  
\*条件： 太尾第二学童の増床工事一部負担金： 2,000,000円

⇒10/18 提案内容を承認するとの回答を頂く。

## ②児童数減少などで維持できなくなった場合の増床部の返却について

### <太尾第二学童としての要望事項>

増床部を返却して、元の家賃で施設をお借りしたい。

⇒10/6 空いた部屋は西山建材店で利用を検討するので返却OK  
との回答を頂く。

# ◆ 10月保護者会後の西山建材店との交渉結果

## ③施設の耐震について

背景) 外部に耐震設計を依頼すると、現地調査・設計費用で150万程度必要になるため、移転準備金の用途としては家賃減額を優先し耐震設計は断念。

ただし専門家の意見として、既に2011年に実施した補強工事の不足部分を補うバランス工事を実施すれば、効果が得られるとの見解を頂いていた。

### ＜太尾第二学童としての要望事項＞

増床工事に合わせて、上記バランス工事を実施して頂きたい。

⇒10/6 施設の耐震化は大切なことなので、西山建材で負担するとの回答を頂く。



## ◆ H27～H31\_収支シミュレーション（別紙参照）

### <シミュレーション条件>

- ・増床後は新家賃を適用
- ・兄弟人数など詳細な情報は適用していません
- ・H27からの消費税アップは適用していません

### <結果>

H27計画2：増床実施、保育料そのまま ⇒ 約90万円赤字

H27計画3～H31計画：増床実施、保育料増額

⇒H27～H29までは収支大きな問題なし。

H30、H31の赤字増額は 児童数の多い学年が高学年になった影響。

\* なお収支シミュレーションは、収入支出ともそれほど精度は高くないので細かい収支赤字は、無視してください。

（毎年、在籍児童数に応じて人件費を調整するなどしています。児童数が減った場合の収入減をそのまま残った世帯で負担する訳ではありません。今回は保育料の増分と家賃の増額部分に着目してください）

## ◆ 増床しないリスク

### \* 行政の動き

- ・面積基準を満たさないと補助金を出さない方針。（5年の経過措置あり）  
⇒来年度入所児童が6年生になる年度から適用される。
- ・優先利用の考え方検討中。（ひとり親、障がい、低学年）

### <運営面>

現状スペース87㎡のままでは定員53名⇒ 1学年あたりの平均だと9名不足。  
毎年入会を制限する必要がある、学童を必要とする世帯を受け入れられないこともあり  
学童の良さを享受できない世帯が増える。  
更に進級する度にトータル人員を鑑みて各学年で人数調整の必要があるかもしれない。  
運営を考えると継続的に利用する低学年を優先せざるを得ない検討も？

### <保育面>

- ・雨の日など子供たちにとって過酷な環境となる。トラブル増。
- ・ゆったりできるスペースが無く、遊びの幅も制限される。

増床後のスペース127㎡だと77名 ⇒ 1学年12名としても1～6年で72名  
5年の間には、新しい受け皿もできるので、それほど調整の必要が無いのではと思われる。  
子供にとってゆったりとした空間を確保できる。

## ◆ まとめ

・金銭的な課題であった家賃減額交渉も目途が立ち、また増床部を返すことも選択肢として可能となったため長期的なリスクは低減された。

⇒よって保育面と先々の運営面を考えると、増床工事を進める方向としたい。

**以上、ご承認の程、よろしく申し上げます。**